

## 水稻の8月上旬の防除について

～紋枯病、稲こうじ病の発生に注意～

7月下旬の巡回調査において、紋枯病の発生が多く、要防除水準を超えるほ場も確認されています。穂ばらみ期の防除を徹底しましょう。

また、昨年、稲こうじ病が多発した地域では、今年も発生が懸念されます。稲こうじ病の防除適期は穂ばらみ期よりも前になります。時期を逸すると防除効果が期待できないため、適期の防除に努めましょう。

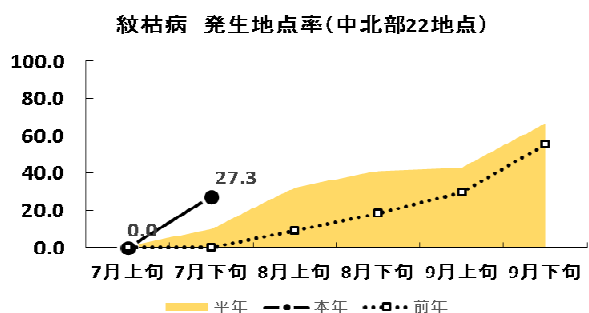
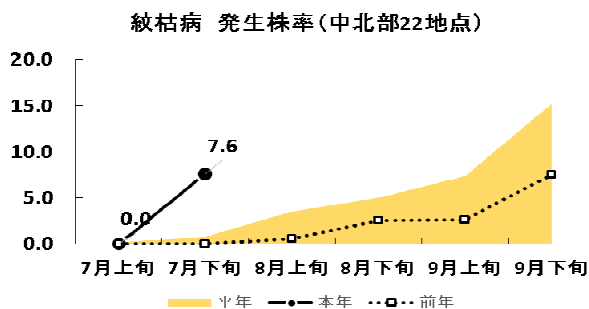
### 1 紋枯病

#### ●発生状況

- (1) 7月下旬の巡回調査において、北部、中東部、中西部で発生が見られており、平均発生株率は過去10年で最も高くなっています。
- (2) 7月下旬の巡回調査での要防除ほ場率は、14.8%です。
- (3) 広島气象台7月28日発表の中国地方1か月予報によると向こう1か月の気温は高い確率が60%、降水量が多い確率が40%と発生に好適です。

#### ●防除上の注意事項

- (1) 中生品種では穂ばらみ期防除を徹底しましょう。すでに出穂しているほ場でも、上位葉への病斑の進展が見られる場合は進展が見られる場合は防除を行いましょう。
- (2) 昨年度、紋枯れ病の発生が多かったほ場や、分げつ数の多いほ場では発生しやすいので注意しましょう。
- (3) 防除適期は、穂ばらみ期～出穂期です。薬剤は病幹部の葉鞘によく付着するように株元を狙って散布しましょう。
- (4) 要防除水準は、穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上となります。



紋枯病罹病株

## 2 稲こうじ病

### ●発生状況

- (1) 出穂後の稲刈りが近くなった頃に発生が見られます。
- (2) 令和3年の発生地点率は28.0%（平年15.8%）で、過去10年で3番目に高くなっています。稲こうじ病は、土中に残った厚壁胞子が翌年の伝染源となるため、前年発生が多かったほ場では多発する可能性があります。

### ●防除上の注意事項

- (1) 出穂の遅い品種、晩植えのイネに発生する傾向があります。
- (2) 穂ばらみ期に降雨が多く、出穂後に高温（25～30℃）の場合に発病が多くなります。
- (3) 防除適期は、銅剤では出穂前10～21日、シメコナゾール剤では出穂前14～21日です。



稲こうじ病罹病籾

## 3 薬剤防除について

薬剤散布については、農薬使用基準（使用量、希釈倍数、使用時期、使用回数等）を遵守するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底してください。

なお、最新の農薬情報は、農林水産省ホームページ「農薬コーナー」の「農薬登録情報提供システム（<https://pesticide.maff.go.jp/>）」を参照してください。

### ●お問合せ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム  
〒739-0151  
東広島市八本松町原 6869  
TEL：082-420-9662（直通）



ひろしま病害虫情報

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>)

ひろしま病害虫情報

検索

ホームページ  
リニューアル!

